

令和6・7年度 研究主題

身近な自然に興味や関心をもち、
関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む

第3回 研究部会 講演会 令和7年9月16日(火) 会場：伝法幼稚園

演題 「自然と出会い、関わる中で、トキメキ、ヒラメキ、気づき・発見が豊かに
生まれる保育の実践」

講師 大阪総合保育大学 教授

【幼稚園教育要領 5領域「環境」の中の「自然(動植物)」について】

○内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。(服装・果物・ドングリなど)
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。(雨・風の強さ・虹・月食など)
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。

○自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち、関わっていくようになる。

○内容の取扱い

- (2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。
- (3) 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にすることを、公共心、探究心などが養われるようにすること。

幼児が「気付く」ということが多く明記され、大切にしていることが分かる。また、感じる、考える、言葉などで表現する、関心が高まるなど、幼児が自然との関わりの中で心を動かすことが大切であり、その経験が小学校以降の生活や学習における基盤となるものと考えられる。よって、幼児期に好奇心や探究心を育むことは大切であると考えられる。

【幼稚園教育要領の5領域「環境」の視点から「自然にかかわる」について】

○自然、身近な動植物、自然事象への関わり方、接し方(意識的に見る、触れる・触る、世話する)によって、気づき(知的な部分が気づきの中心になるが、面白さや不思議さなど自分の気持ちが伴って気付くことが大事)・発見が生まれ、幼児の心の中でトキメキ(心を動かされる、感動、親しみ、愛情、畏敬の念、生命を大切にすることを、好奇心、探究心)や、頭の中でヒラメキ(考えたこと、感じたこと、気付いたこと、思ったこと、経験値)となって、また自然に関わろうとする姿になると考えられる。

【子どもが心を動かしていること（トキメキ）に注目する】

- トキメキながら遊ぶ中で、子どもたちはこの遊びが好きになってくる。（トキメキが続く）
- 好きだからこそ、夢中になるし、もっとやりたくなる。（トキメキ、ヒラメキがたくさん生まれる）

【「やってみたい！」（トキメキ）の気持ちが続くことが大切であり、「自然に関わる遊び」の中で、幼児の遊びを理解する】

幼児は、「やってみたい！」（見つけたい・つかまえたい）とトキメキが続いているとき、いろいろなことを考えながら、自分の思いをもって遊んでいる。

- 幼児の行動を丁寧に見る
 - ・何をしているか、どんなふうになっているか？
→行動・行為を中心に見る
 - ・どんな様子か？どんな表情か？
→イキイキとしている、楽しそう、慎重、不思議（なんでかな？）と思っている表情を見る
- 幼児の言葉（つぶやき・やりとり）に注目する
 - ・何をつぶやいたり、話したりしているか
→感じたこと、気付いたこと、知っていること、考えていることなどが言葉に表れる
- 幼児が何に心を動かされているかを読みとる
 - ・どんなことに心が動いているか（楽しい、面白い、不思議、好奇心など）
 - ・「こうしたい」「もっとこうなってほしい」という幼児の思い・探究心

【乳幼児の自然と関わる保育】

- 2つの方向性「環境構成の工夫」「自然に触れる体験」
「環境構成の工夫」…保育室で自然（動植物）に触れる際の環境構成の工夫
「自然に触れる体験」…屋外での飼育・栽培／自然物・自然事象に触れる
- 1回の体験ではなく、継続性が大切
1回の体験で、すべてを体験し尽くすことはできない。継続的に対象に関わることで、その変化や意味に気づき、新たな問いが生まれてくる
- 教師は、幼児の遊び・活動を丁寧に見ながら保育の並走者になる
幼児の「気づき」「思い・願い」「疑問（問い）」「探究する姿」に気づき、支える。予想外の結果（うまくいかないこと）に出会ったときの対応を考える

【学んだこと】

- ・教師が、「保育はハート」を感じながら、教師の細かい気づきと、自然の変化や遊びの変化を知ることが、より幼児の感性を豊かにすることを学んだ。また、幼児が、心を動かされていることについて知ること大切であり、自身の保育に生かしていきたいと思った。
- ・面白さや不思議さは気持ちが伴って動くことが大切だという言葉に心が惹かれた。写真を通して、好奇心や探究心が育まれていく環境を見て、保育の中に取り入れていきたいと思った。教師自身が幼児のトキメキ、ヒラメキ、気づき、発見の先を決めてしまわず、幼児と一緒に遊びをつくっていくことが大切であると学んだ。

